

第6回大野市総合計画審議会

日時：令和2年11月5日(木) 午前10時～午前12時
場所：大野市休日急患診療所 3階 大会議室

出席者 大野市総合計画審議会委員 23名（欠席者2名）
政策局長、総合政策課長、総合政策課員

1 会長あいさつ

- ・総合計画の審議も終盤に入ってきた。
- ・限られた時間ではあるが、本日も皆さまのご協力をお願いしたい。

2 報告事項

(1) 委員の出欠について

3 議事

(1) 第六次大野市総合計画前期基本計画（素案）について

○事務局から資料1、2について説明。

- ・資料2についてご意見をいただき、「目指す姿」「現状」「課題」「施策」「みんなができること」について審議会として取りまとめ、中間報告をしたい。
- ・中間報告後は、市の方でパブリックコメントの手続きをし、市民の方の意見をいただく予定。
- ・成果指標は、パブリックコメントの意見も踏まえて、設定をしたい。

質疑等

<こども分野>

委員：「項目2：学び」について、課題の中に「福井型コミュニティスクールから国が進めるコミュニティスクールに転換する必要がある」とあるが、コミュニティスクールとは、どういうものか。

事務局：福井型コミュニティスクールは、福井県が実施しているもので、家庭、地域、学校が連携し、地域の特性や実情を活かしながら、地域に根差した開かれた学校づくりを目指すという理念のもと、学校運営に関することや学校評価に関することなどに取り組んでいる。国が進めるコミュニティスクールと、理念などは変わらないように感じるが、担当課からは、福井型から国の制度に転換し、家庭、地域、学校の連携を引き続き図っていくと聞いている。

会長：わかりにくい言葉には注意書きを付けること。また、コミュニティスク

ールを福井型から国に転換するというのであれば、それぞれのコミュニティスクールがどういうもので、なぜ転換するのかということが分かるような記載が必要。

委員：「項目1：子育て」の成果指標である出生率に単位がない。単位は「人」になるのか。

事務局：担当課に確認した上で訂正したい。

委員：目指す姿が現在進行形になっているのが気になる。また、「この現状・課題」を解決するために「この施策」があるということを市民が見てわかるようになっていくことが大切である。

会長：目指す姿の書きぶりについては、私も同感。語尾の書き表し方を変えるなど検討を。

委員：「項目2：子育て」の「施策2」の中に、「保育士などの資質の向上」とあるが、保育所からこども園へ移行の流れがあることから、「保育士」とあるのを「保育士・保育教諭」と訂正していただきたい。また、児童憲章で謳われているように、小さな子どもたちにも人権があるということ、そのことを意識して保育・幼児教育に携わるということを入れていただきたい。

事務局：「保育士」を「保育士・保育教諭」に訂正したい。小さな子の人権についても施策に入れるよう検討したい。

<健幸福祉>

委員：「項目4：地域福祉」について、全体としてよくまとめられていると感じる。みんなができることとして、「ボランティア活動に参加します」や「身の回りで困っている人がいたら手助けします」とあるのは、市民も取り掛かりやすいことであり、とても良いことだと思う。ボランティアに参加したい人がどこに行けばいいのかわかりやすくすることが社協としても課題だと考えている。また、みんなができることの一番最後「人生の最終段階に備えて、自分の考えや家族を親しい人に話、整理して記録します。」は大事なことだと思うが、関係する課題や施策がよくわからない。成果指標にもつながっていない。これを入れた理由が知りたい。

事務局：「人生の…」というのは、幹事会委員と話し合っ、これからはこういうことも必要だと思い、提示させていただいたが、このフレーズが与える印象に不安もあるので委員の意見をお聞きしたい。

会長：書きぶりをもっとやわらかくすれば大丈夫だと思う。また、「ボランティアに参加しやすいような体制をつくります」というようなことも施策として入れた方が良くもしい。

委員：「項目5：スポーツ」で、「2020年東京オリンピック・パラリンピック

ク」とあるが、この表記は正しいのか。

事務局：確認して、記載の方法を検討する。

<地域経済>

委員：「項目8：商工業」や「項目10：働く環境」についてであるが、コロナの影響により働き方や生活様式が大きく変わってきている中で、人口密度の高い都市部で生活し働かなくても、在宅勤務やリモートで仕事ができることがわかってきた。このことから、大野に戻っても大きな仕事ができる、ということを示唆していただきたい。企業誘致と並べて、「ふるさと大野へ帰ろう」「大野で大きな仕事をしよう」という施策を盛り込んでいただきたい。また、デジタル関係の若い技術者は、ほとんどが東京に集中しているが、中小企業や小規模事業者がデジタル化に取り組むためには、マンパワーが必要であり、デジタル関係の人材育成も必要である。

会長：「ニューノーマル」「デジタル」「SDGs」というキーワードも入れる必要がある。

委員：今、移住定住を推進するチャンスであるのに、そういう施策が見えず、遅れていると感じる。住宅や土地の提供といった思い切った支援を打ち出してもよいのではないか。また、一時期、観光DMOの設立機運が高まったが、今はすっかり静まっている。行政指導の観光の在り方から思い切った転換が必要。

会長：地方圏勝ち組になる施策をちりばめていくことは大事であることから、リアリティのある施策を考えていただきたいと思う。

事務局：移住定住については、「項目20：移住定住」で、今後の方向性を示している。住宅の提供までは施策として挙げてはいないが、空き家情報バンクの登録や住宅リフォームの補助については、引き続き行っていきたいと考えている。

委員：「項目6：農業」の中にある「農山村」という言葉に違和感を感じる。他に良い言葉はないか。

事務局：検討したい。

委員：「みんなができること」は、「私たちでもこんなことができる」ということがイメージしやすいものがよい。「項目8：商工業」「項目9：観光業」の「みんなのできること」は、もっとたくさんあるはず。学生など若い人で考えると良いと思う。私の研究室の学生にも考えさせてみたい。

委員：「項目9：観光業」について、大野は観光ポテンシャルが高いと思うが、地元の人の大野に対する意識が低いと感じる。みんなができることとして、「一人一人がおすすめのポイントを持ちます。」というような、大野に対する意識を高められるようなことを入れてはどうか。

<くらし環境>

委員：「項目16：公共交通」についてであるが、中京方面への高速バスを誘致しているということを議会だよりで読んだことがあるが、それはどうなっているかを聞きたい。「みんなができること」には、公共交通に対する意識を高めることを追加する必要だと思う。また、北陸新幹線開通後の越美北線をどうするのかということを考えて方がいいと思う。

事務局：高速バスなどについては担当部署で検討していると聞いている。

委員：「項目15：道路」「項目16：公共交通」については、他の項目に大きく影響するもの。観光と公共交通、道路については、まちなかの歩きやすい道路空間といったところで関りが深い。道路については、歩行者目線や自転車目線といったところを強化すると良い。公共交通に関しても観光とつなげるなど、もう少し広い視野で書いても良いと思う。

委員：「項目15：道路」の施策に、「除雪車運行管理（GPS）システムを導入」とあるが、先に導入している県で問題が多く生じている。検討が必要。導入するという表現ではなく、次の文章につなげて導入を検討するという表現が良いと思う。

委員：雪対策は道路だけではないので、他の項目にも入れて良いのでは。

事務局：雪という表現をするかどうかは検討が必要だが、「項目4：地域福祉」や「項目17：ひと・地域」地域での支え合いという施策があり、そちらの方で考えている。

<地域づくり>

委員：「項目19：文化芸術」の成果指標について聞きたい。「公演などの参加人数の割合」とあるが、何の個数をもって算出しているのかわかりにくい気がする。また、「博物館等における企画展や講座開催数」は博物館の企画展を指すのか、等とあることから、例えばCOCONOアートプレイスや大野城といった施設も含んでいるのか。

事務局：「公演などの参加人数の割合」の分母は4月1日現在の人口で、分子は文化公演の年間参加人数である。博物館等の施設がどこなのかは把握していない。成果指標については、全体的に見直しが必要と考えている。

会長：指数、算出根拠は、分かりやすくすることが必要。

<行政経営>

会長：「項目23：市民サービス」の「みんなができること」は何か必要。

委員：「項目21：情報共有」についてであるが、個人のSNS発信では限界があるため、協働という形が必要。発信力のあるインフルエンサーと連携するべきだと思う。ブランド調査の順位はあまり意識しなくてもよいのではないか。

- 委員：いろいろなランキングがあるが、もっと大野の良いところを発信すれば
魅力度も上がってくると感じる。実行力のある施策が必要
- 会長：「一人一日一発信」を提唱したことがある。福井県民一人一人が営業マンとして、県外で何か一つ地元の自慢をしてくるとか、それぐらいしな
いとなかなか変わっていかないように思う。検討して入れ込みたいと思う。
- 委員：「項目23：市民サービス」について、法人の印鑑証明書を取得するには福井の法務局まで行かなければならず、非常に不便である。大野に法務局の自動発行機サービスセンターが必要であることから、是非そのことを書いていただきたい。
- 事務局：かねてより課題として認識しているが、設置に係る市の負担が大きいと聞いている。
- 委員：新型コロナウイルスということと、雪が降って大変であるということで、国負担で設置してほしいということを要望してきた。大野市が自己負担で設置しますという書き方ではなく、設置の要望をしたということや、将来的に必要なだと考える、というように現状として書いていただけたら良い。
- 事務局：検討させていただきたい。

<全体として>

- 委員：「項目2：学び」に関して、スクールバスの運転手の現状を、市や市教委は把握しているのか。
- 事務局：担当課に確認するが、把握していないためお答えすることはできない。
- 委員：地域の子どもは地域で育てるということについて、ここでの使われ方は矮小化されてしまっている。もう少し、大きな枠の中で、地域の教育力が試されるものだと思う。地域の持っている教育力を学校が活用するということが少なくなっているように感じる。地域の達人を学校に呼んで一緒に学ぶとか、学校教育に取り込むことが必要だと思う。また、小さいうちにいろいろなスポーツに親しむことが大切であることから、総合型地域スポーツクラブの確立を急いでほしい。
- 事務局：地域の子どもは地域で育てるということは本当に大切なことであると認識している。地域づくりの分野でも、地域で子どもを育てるという記載をしている。各学校にある協議会でもそのような話を深めてほしいと思う。
- 委員：人口減少対策として、今有るものを活用することが大事。例えば、越美北線を、乗って残すための施策が必要。そのためには、九頭竜湖という地域資源を活かすことなども考えられる。「住んで良し来て良し」のまちづくりが大事。
- 会長：これからは地方の時代であり、地方が今持っている地域資源を利用することが大事。行政経営のところ、そのような文言を入れ込めると良い。
- 委員：限界集落の記載がどこにもない。高齢化により、各集落で祭礼や獣害対

策ができなくなっている。地区の維持が難しくなっている。そういうことの認識や記載が必要。

会 長：その課題と、課題の解消に向けた実践について、行政経営の分野で何か書けないかを事務局と検討したい。

まとめ

会 長：本日いただいた意見に基づき、事務局で修正を加えた後の確認は、会長・副会長が行うこととしてよろしいか。

⇒承認。

事 務 局：それでは、事務局で修正後、会長・副会長に内容を確認していただき、「審議会の中間報告」としてまとめ、委員の皆さまには文書でご報告させていただきます。

⇒承認。

(4) その他

事 務 局：次回の審議会は、パブリックコメント後の12月24日午後の開催を予定している。

4 閉会 副会長あいさつ

【会議資料】

- ・資料1：第六次大野市総合計画 前期基本計画（素案）分野・項目ごとの施策一覧
- ・資料2：第六次大野市総合計画 前期基本計画（素案）